

大阪交番検査車両所でまたしても「不安全な事象」が発生！

「安全より営利優先」の会社の姿勢と現場作業の

「危険予知」ができない管理者の資質に問題あり！！

大阪の交番検査で協力会社の「SEK」が使用している「ガラス替え用の作業車は支柱1本で作業台を上昇・下降させ車両の幅以上に作業台がセリ出す構造で、下の空間に他の作業者の体が入ることになり、作業中も作業台を支える支柱は機械的にロックされず自由に上昇・下降するため社員から「危ない」という声が出ていました。9月の「安全衛生委員会」に取り上げてもらいましたが一向に変化がないため、10月11日に社員が検修科長に尋ねたところ「安全衛生委員会でも議論してSEKの方で対策を検討中です」という対応でした。その後10月25日と11月6日に「安全衛生委員会」も開催されましたが何の対策もなく、11月7日のP交（午後1本目の交検）の13号車でJR社員が台車を検査中にその上で作業していたSEK社員が「ガラス替え作業車」の作業台を下降させるという事象が発生しました。

SEKの作業者は「下降します」と声を出しましたが下にいたJR社員には気付いていませんでした。JRの作業者が近くに「作業点検」に来ていた助役と所長に事情を説明しましたが「SEKの作業者は下降しますと声をかけたんやね」と、あまり問題がないような口ぶりでした。作業車の下に人が入り込まないように作業車を改造するとか、SEKとJRの作業時間が重ならないようにするとか根本的な対策をしないと物理的に人が挟まれる危険があるのです。日頃から「安全最優先」を言いながら「安全」にはお金をかけずに「社員の注意力ばかりを高めよ」というのが「リニア建設費捻出のためにコスト削減に余念のないこの間の会社の姿勢」です。そして現場作業の「危険予知」をできない管理者の資質も問われます。社員の「作業点検」をする前に自らの「危険予知能力」を点検すべきです。

形ばかりの「安全衛生委員会」ならやめるべきです。安全に関して意思疎通ができないなら「SEKへの業務委託」を解消すべきです！